

令和4年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	R02	R03	R04
経済学・経済政策	67.0	61.9	53.9
財務・会計	61.6	62.9	59.4
企業経営理論	62.7	65.0	59.2
運営管理	59.4	61.0	58.5
経営法務	58.5	58.3	63.1
経営情報システム	66.1	52.0	55.1
中小企業経営・政策	64.0	51.5	55.5
	62.8	58.9	57.8

■令和4年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	53.9点	13.6
財務・会計	59.4点	16.1
企業経営理論	59.2点	12.4
運営管理	58.5点	11.0
経営法務	63.1点	12.7
経営情報システム	55.1点	12.7
中小企業経営・政策	55.5点	12.1

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	40.9%	13.1%
財務・会計	53.2%	7.6%
企業経営理論	55.1%	5.7%
運営管理	49.8%	5.9%
経営法務	66.0%	3.6%
経営情報システム	44.7%	10.2%
中小企業経営・政策	43.1%	11.2%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	96点	16点
財務・会計	92点	8点
企業経営理論	83点	11点
運営管理	81点	22点
経営法務	92点	24点
経営情報システム	84点	20点
中小企業経営・政策	83点	23点

■令和4年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	61.5点	96点	44点
財務・会計	68.8点	92点	44点
企業経営理論	66.1点	83点	51点
運営管理	65.4点	81点	46点
経営法務	68.3点	92点	40点
経営情報システム	63.1点	84点	44点
中小企業経営・政策	62.1点	83点	45点

注) 当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承下さい。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださりまして、誠にありがとうございました。8月18日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和4年度の本試験は全体として例年よりも難度がやや高かったと考えます。

- ① 5点以上平均点が低下した科目
「経済学・経済政策」「企業経営理論」
- ② 5点以上平均点が上昇した科目
「経営法務」
- ③ 横ばいの科目

「財務・会計」「運営管理」「経営情報システム」「中小企業経営・中小企業政策」

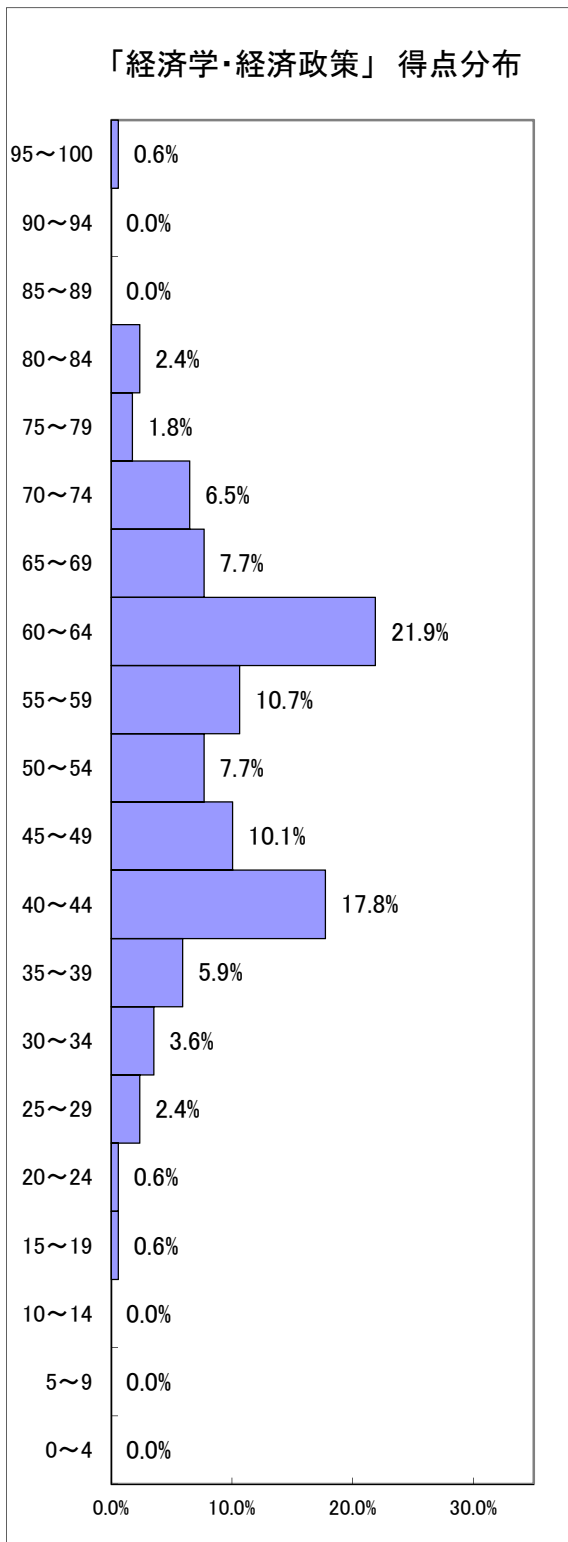
したがって、平均点の高い科目（「経営法務」「財務・会計」「企業経営理論」等）で、平均点低い科目（「経済学・経済政策」等）の不足分をしっかりとカバーできたかで合否が決まると考えます。

ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

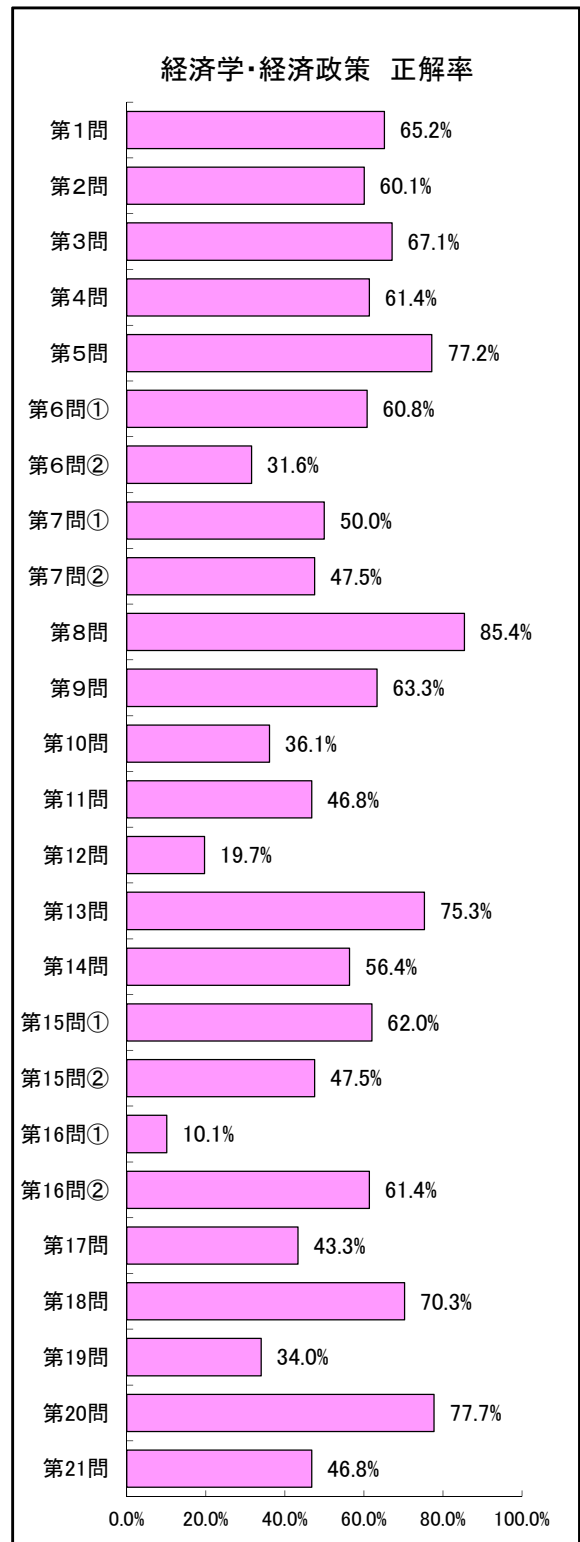
A 経済学・経済政策

平均点：53.9点、標準偏差：13.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率

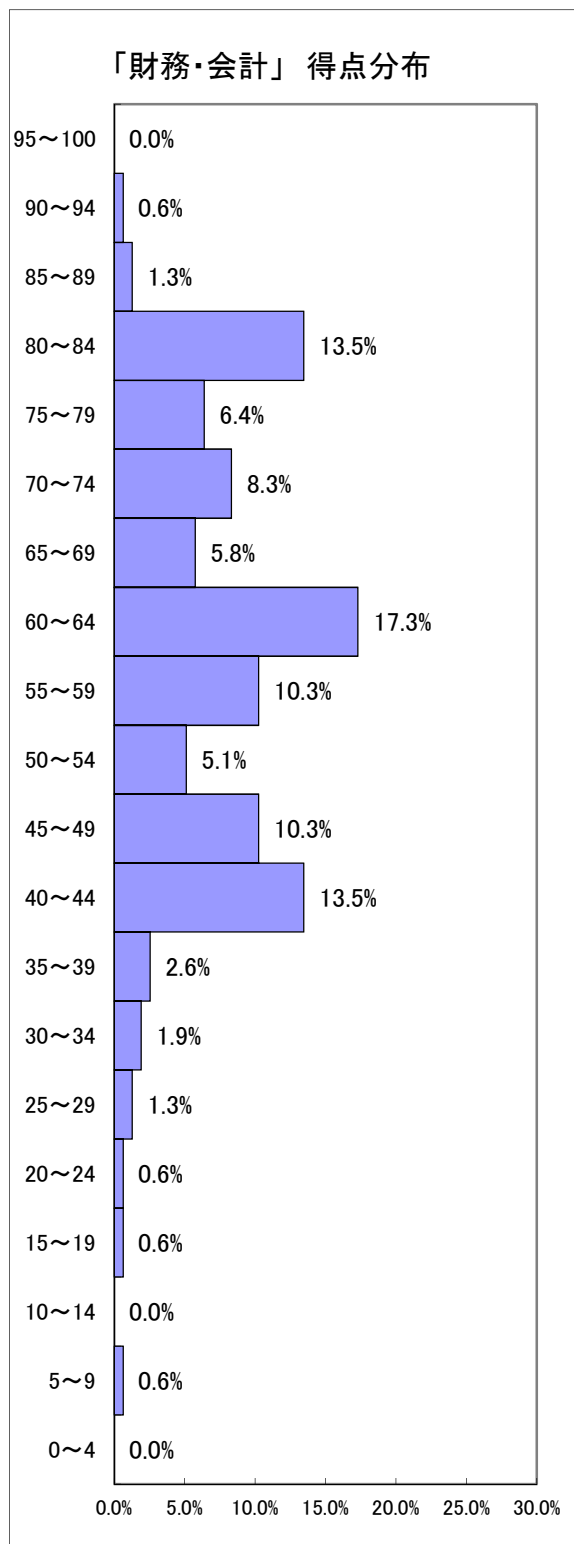


《コメント》

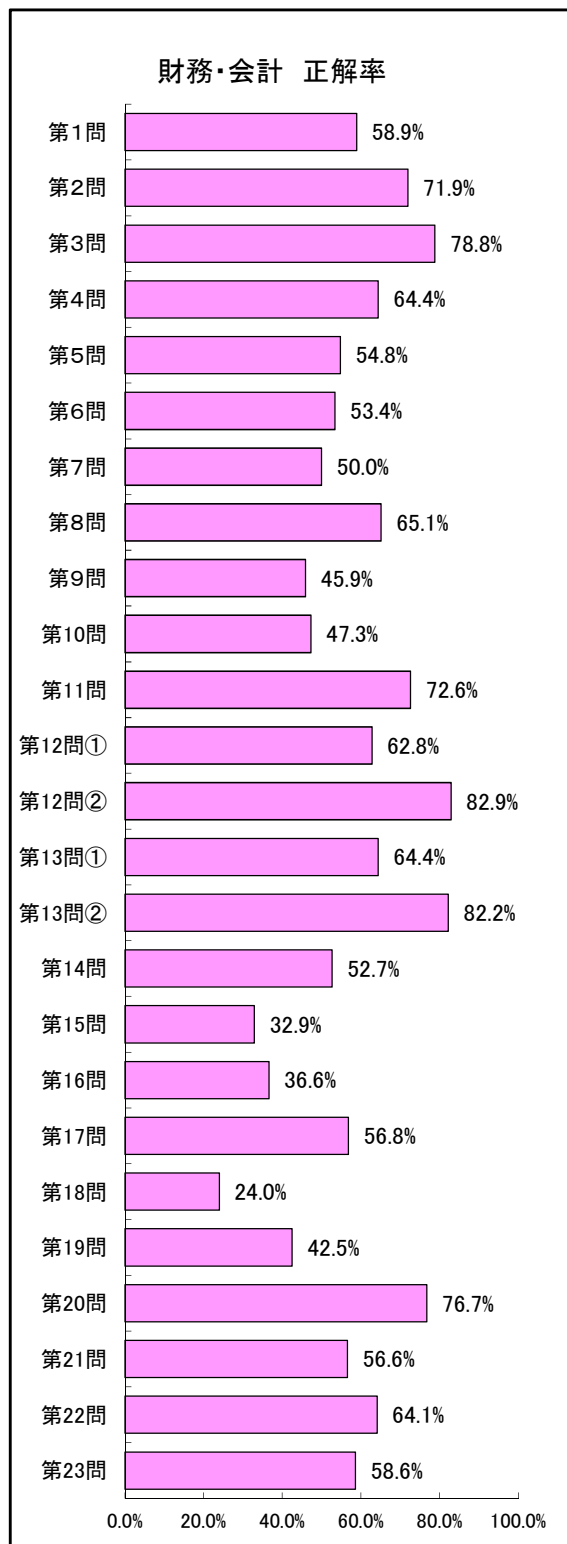
令和4年度の本試験は、過去21年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中18問が5肢択一であったが、今年度も25問中17問が5肢択一であり、5肢択一の問題の多さが目立った。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が4問出題されたが、今年度は10問出題されたことも大きな特徴である。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題もあるが、5肢択一問題や正誤の組み合わせ問題の多さが、全体的な難易度を上げている。前年度より難易度は高くなったといえる。よって、今年の問題は、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学12問、ミクロ経済学13問であった。

B 財務・会計 平均点：59.4点、標準偏差：16.1

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

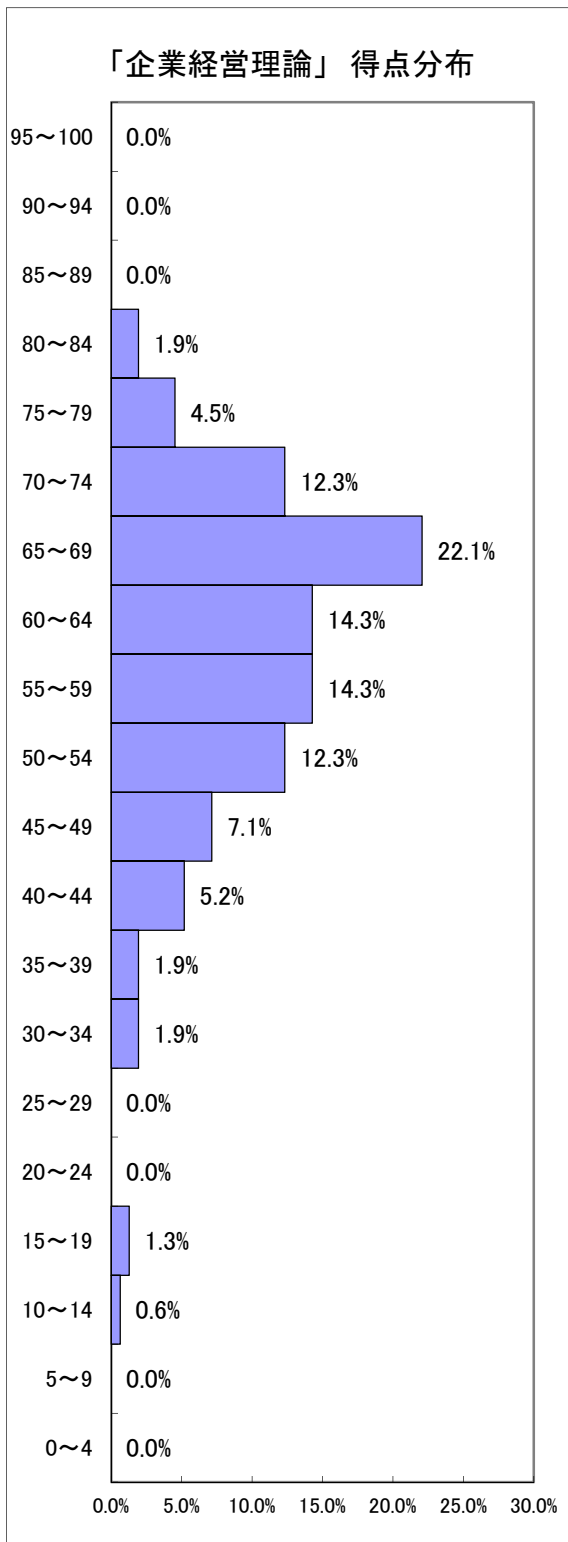
令和4年度の本試験は、問題数は23題（昨年23題）、設問数は25問（昨年25問）であった。昨年に引き続き、5肢択一の問題が2問（昨年1問）出題されている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が15問（昨年14問）、財務分野（ファイナンス）が10問（昨年11問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、昨年に引き続き、今年も会計分野の出題割合が高かった。しかし、出題論点を考慮すると、定番の論点の出題が少なく、全体的な難易度は例年よりやや高いレベルにあったと思われる。したがって、今年度は、定番の問題を落とすことなく、それ以外の問題で得点を積み重ねることができれば、合格基準点である60点を確保できたものと思われる。

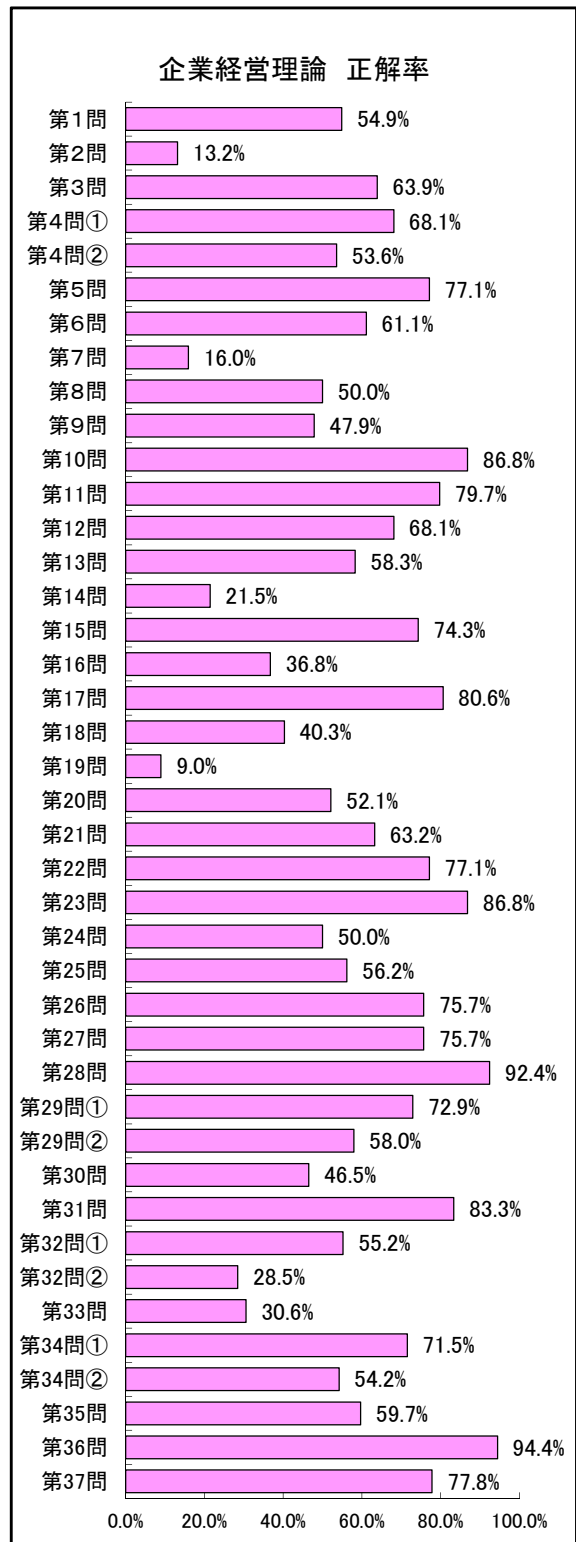
C 企業経営理論

平均点：59.2点、標準偏差：12.4

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

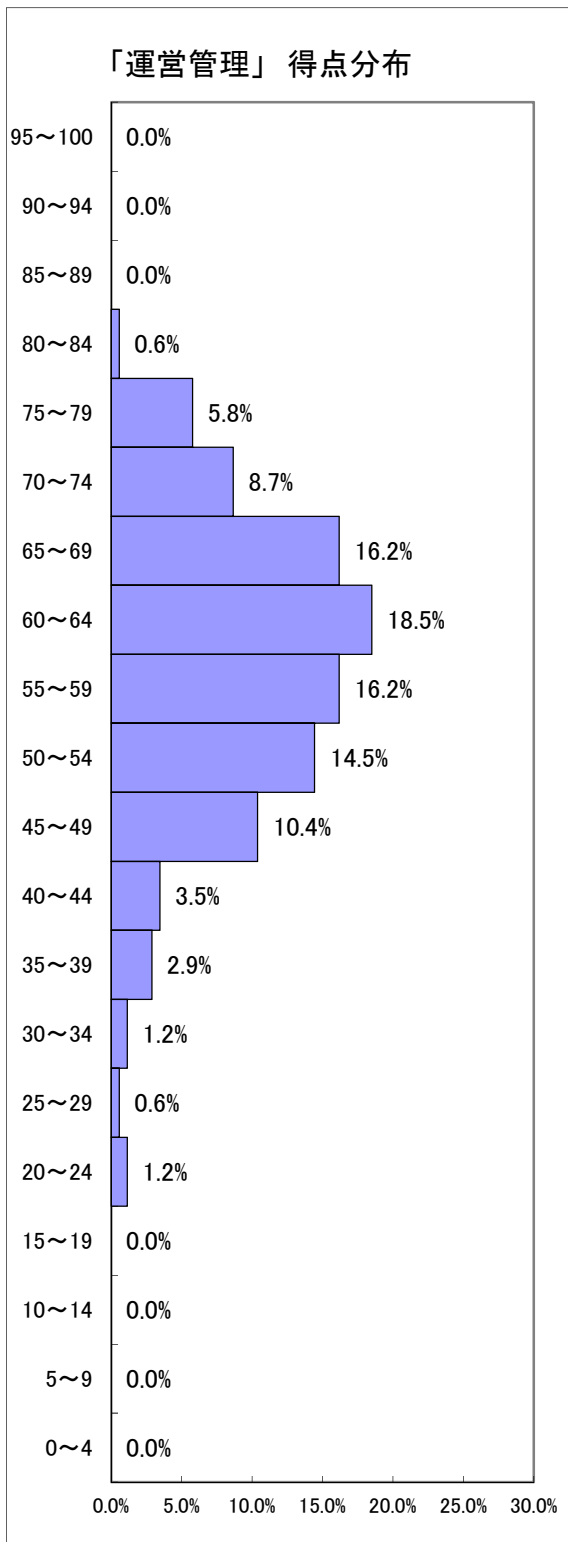
本科目は、量の面から見ると設問数は41設問と昨年と同数である。昨年度よりも解答の判断が難しい問題も多く、全体としては昨年度よりも難度はやや高くなったと思われる。

難易度を決める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一形式と5肢択一形式の問題を比較すると後の方が難易度は上がる。本年の出題状況を見ると、4肢択一形式と5肢択一形式の設問の比率が11対30になっており、昨年の18対23よりも5肢択一形式の出題数が大幅に増加している。

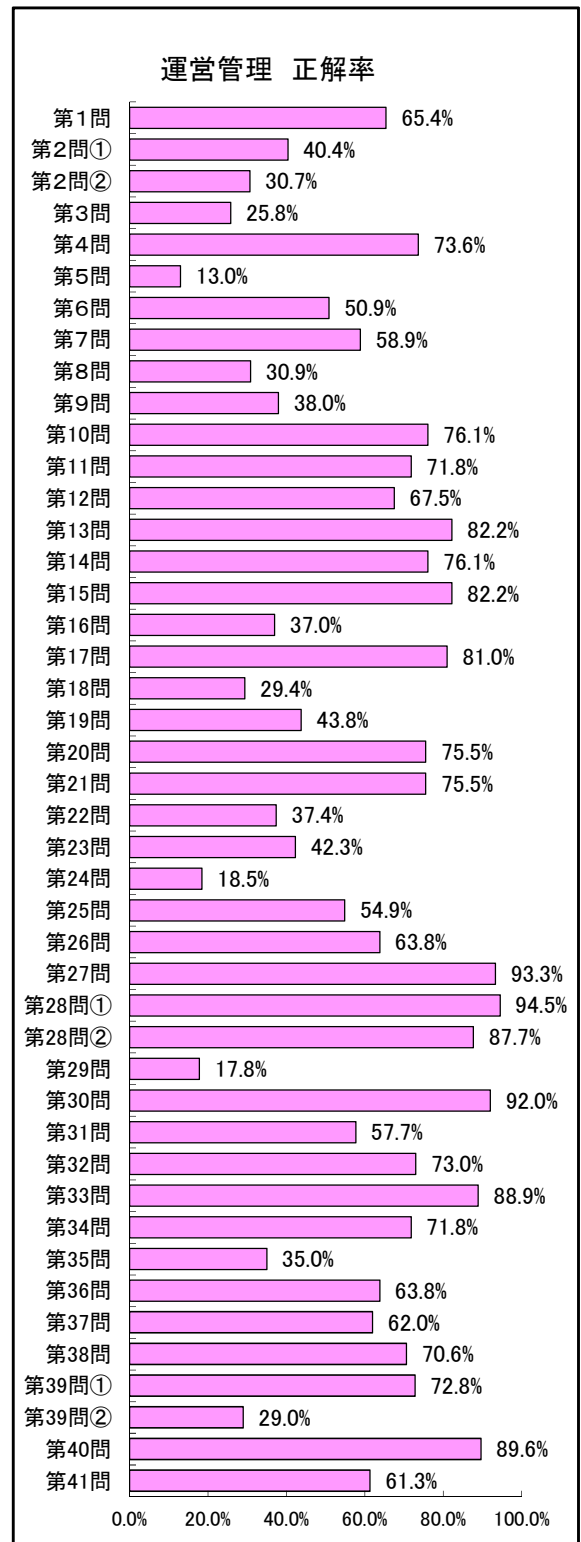
出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問、組織論が14設問、マーケティング論が14設問であった。近年の出題傾向と比較すると、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

D 運営管理 平均点：58.5点、標準偏差：11.0

■ 得点分布



■ 設問別正解率



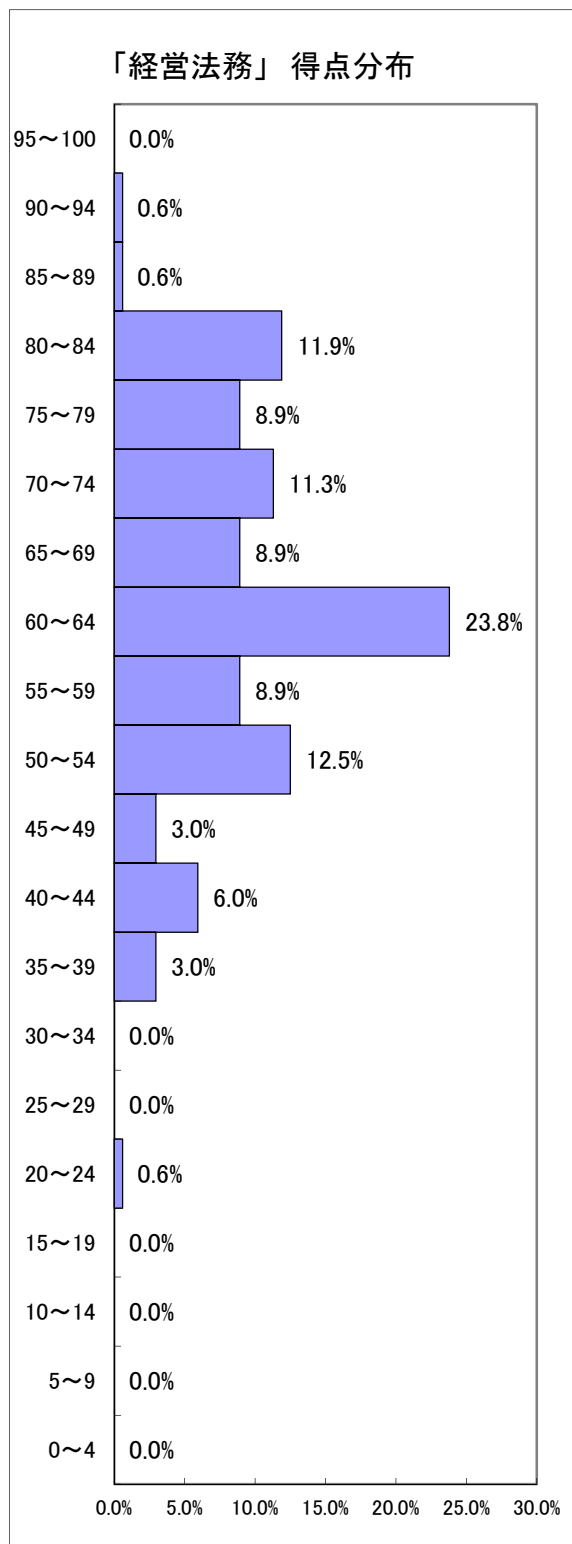
《コメント》

令和4年度の本試験は、運営管理44問（昨年44問）のうち、22問が生産管理（昨年22問）、22問が店舗・販売管理（昨年22問）であり、例年どおり偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理18問（昨年10問）、店舗・販売管理19問（昨年18問）であり、昨年と比べ大幅に増加した。さらに、計算関連の問題が10問（生産管理7問、店舗・販売管理3問）出題されており、その他にも、その場で内容を把握して解答を導かなければならない問題も比較的多かったため、解答を見直す時間が不足した方も多かったと思われる。しかし、生産管理、店舗・販売管理いずれも過去に同様の出題がされた問題も多かったため、全体としては標準レベルの難易度であったと思われる。したがって、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。

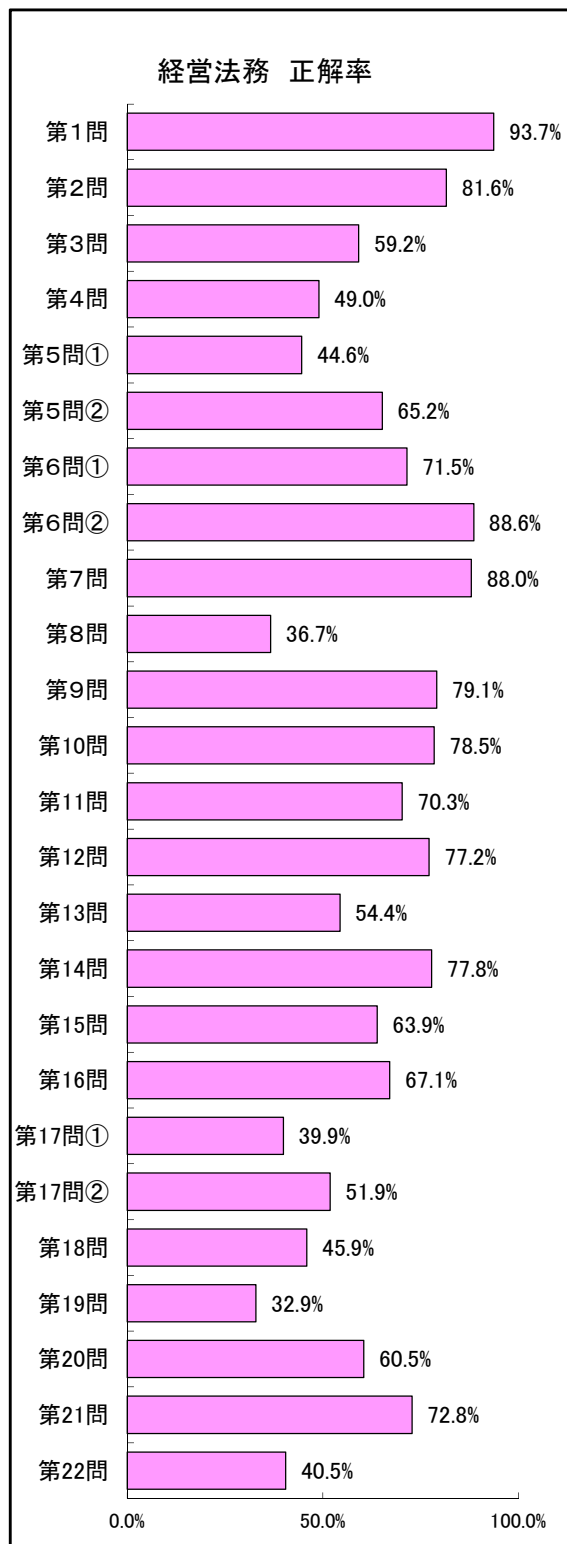
E 経営法務

平均点：63.1点、標準偏差：12.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和4年度の本試験は、問題数は22題（昨年20題）、設問数は25問（昨年25問）であり、昨年度とほぼ同じ問題構成であった。ボリュームは例年並みといえる。

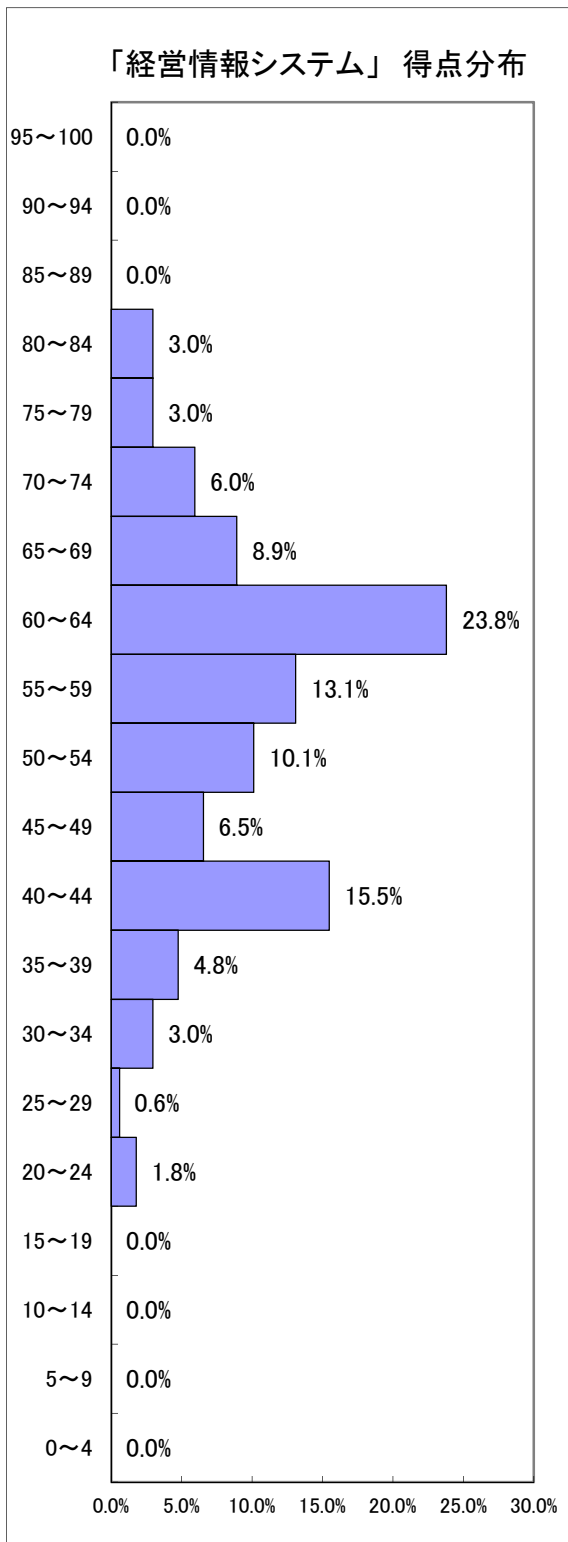
出題内容は、会社法関連が9問（昨年5問）、知的財産権関連が9問（昨年10問）、民法が5問（昨年7問）・その他が2問（昨年3問）であった。

全体的な難易度は、出題数が多かった会社法関連、従来から比較的得点を確保しやすかった知的財産権関連を合わせても標準レベルの問題が多く、また、過去に出題された論点と同様の論点が多く出題されていたことを考慮すると、例年より易しい難易度であったと思われる。したがって、過去問題にしっかりと取り組んでいた受験生であれば、合格基準点である60点を上回る得点を獲得することも期待できるとと思われる。

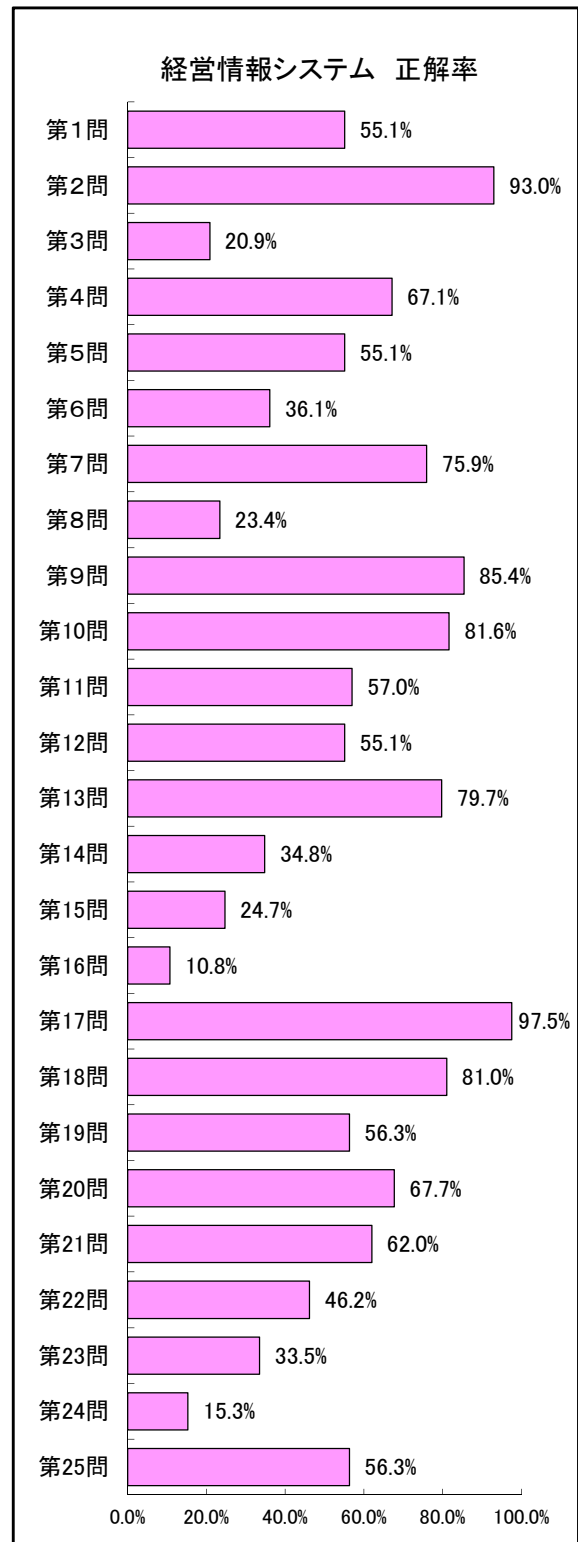
F 経営情報システム

平均点：55.1点、標準偏差：12.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

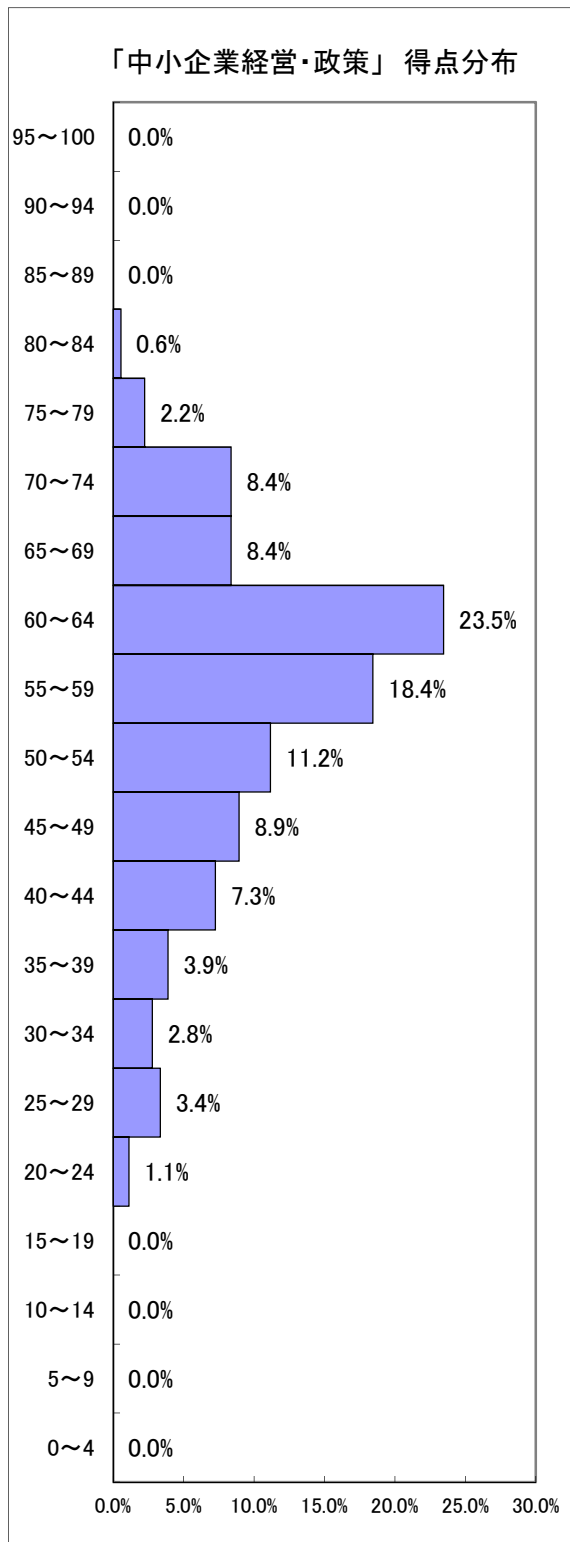
令和4年度の本試験は、近年の設問数と同じで25問であり、そのすべてが昨年と同様5肢択一の問題であった。難度が高かった昨年度と比べると、基本的な問題や、正解を絞り込むことができる問題も多く、比較的取り組みやすかったと思われる。出題形式では、一昨年度以前の数年間は出題がなかった「aとb」のような組み合わせを選ぶ問題が8問出題された（昨年は5問）。

出題の分野別内訳を見ると、概ね前半の第1問～第12問が情報通信技術に関する基礎的知識、後半の第13問～第25問が経営情報管理の出題である。特徴を列挙すると、①時事問題・最新の内容の出題がある、②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている、③統計問題にて、データ分析の計算問題が出題されている、④過去出題された内容が部分的に散在して出題されていることである。経営情報システムは、難度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

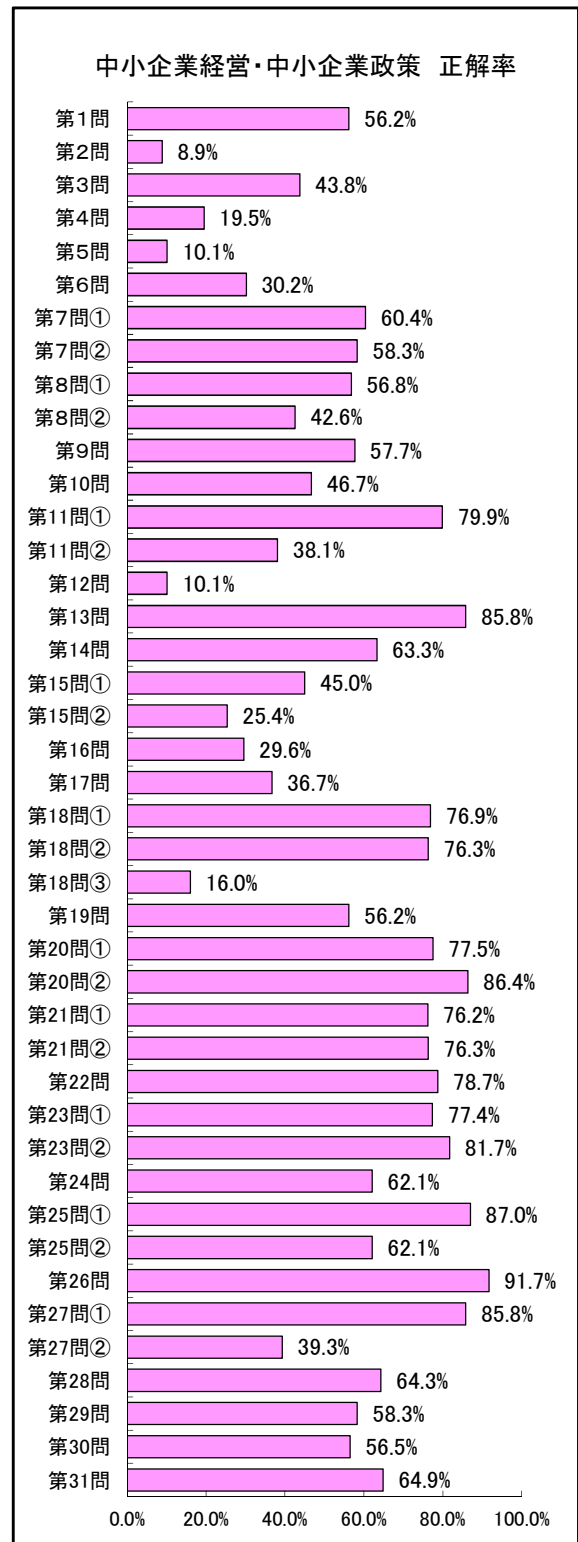
G 中小企業経営・中小企業政策

平均点：55.5点、標準偏差：12.1

■得点分布



■設問別正解率



《コメント》

令和4年度の本試験は、42問の設問数であり、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。難易度は、中小企業経営はやや難しかったが、中小企業政策は得点しやすかったことから、全体的には難易度は高くなかったものと考えられる。中小企業経営の21設問のうち、『2021年版中小企業白書』からの出題が17設問、『2021年版小規模企業白書』からの出題が3設問、『2021年版ものづくり白書』が1設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかりと押さえられたかどうか得点に大きく左右する。中小企業政策の21設問のうち、難度が高かった昨年と比べ、概ね例年どおりの頻出論点を取り上げられている。ただし、合格基準点である60点を上回る得点を獲得するには、中小企業政策で、これまでに出题されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。